



私たちが生活していくうえで、必ず出るゴミ—生活様式の変化とはいえ、このゴミがここ数年急激に増え、ごみ処理施設はパンク状態となつています。
ごみを減らすにはどうしたらよいか。今回は、ごみの現状をコンパクトにまとめてみました。

ごみ排出文化にドッブリ、私たちの生活

平成元年度に市内で出されたごみの量は、一年間に約二万二千ト(可燃物約二万ト、不燃物約二千ト)にものぼつていました。これは、市庁舎を埋め尽くしてしまう量です。これを一人当たりで換算すると一日約九百四十リ、年間で三百四十三トを超えるごみ

ごみ処理にいくら費用がかかるのか

現在全国でごみ処理に使われる年間費用は、約一兆一億円に達しています。これを人口一人当たりで換算してみると、年間約八千九百円。新津市では一般ごみに限ると、一人年間約二千四百円(一世帯当たり約八千九百円)の経費がかかっています。もちろん、こうした経費は、私たち一人ひとりの税金でまかなわれているのです。

ごみが増え続けられ、ごみの処理費用も当然ながら増えます。さらに市の財政に占めるごみ処理費用の比重も増え、私たち自身がごみの税金で強く圧迫されます。では、私たち一人一人が一日に捨てるごみを百ト減らしたらどうなるでしょう。年間約二千四百トの減量と私たちの処理に費やされる私たちの税金が、約一千万円以上節約される計算になるのです。

みんな考えて、やらなければ、パンク！
このまま、ごみが増え続け



れば、将来の自分になるのでしょうか。まず、処理能力が飽和状態になります。現に市内のごみの量は、昭和五十九年度に比べて、五年後の平成元年度は約二割も増えています。これでは、いくらごみ処理場をつくってもすぐ満杯になったり、また、施設に無理がかかり、その補修に追われてしまいます。

ごみの増加は時代のす勢といつてしまえばそれまでですが、ごみの問題だけは楽観してはいけません。また、ごみ量の増加に合わせるように、処理施設(用地)の確保や処理に従事する労働者の不足などの問題も出てきています。このように、ごみをめぐる環境は、大都市だけでなく私たちのまちでも深刻な陰を落としていきます。住みよいまちをつくるため、ごみの減量化などにもつと関心をもち、身近な問題としてごみ処理を改めて考えてみたいものです。

カセットボンベが爆発

廃棄物破砕機に大損害

六月十五日、市之瀬最終処分場の破砕機棟内で爆発事故が発生しました。
この爆発は想像以上の破壊力で、建物の屋根が一部吹き飛び、厚さ十センチもある外壁に大きな亀裂が入りました。もちろん、破砕機にも大きな被害が出ました。幸い、作業員や直接不燃物を持ち込む市民の方々にけが人などはありませんでしたが、たいへんな事故につ

ながるおそれがあります。爆発のおそれのある家庭用コンロのガスボンベやシンナー・ガソリン・化粧品など発火性のものが入っている缶は、使用後も注意が必要です。
使用済みのカセットボンベやスプレー缶などをごみとして出すときは、くきなど穴をあけ中味を出し、缶内が常圧となったのを確認したうえで、不燃物として出してください。
重大な事故を招かないよう、みなさんのご協力をお願いします。



清掃センター第一工場を見学した第一小学校の皆さんからのお手紙を一部紹介します。
* * *

1小児童からのお便り

ぼくが一番おどろいたのは、すごく大きなクレインでいろいろなゴミをもちあげるのや、七百五十度から九百五十度くらいのごい火でゴミをまやしていることです。あと、えんとつが約五十トもあることや、あんな

清掃センターを見学してみよう

見学して、こんな面白いゴミをまやしているんだな、と感じました。でも、ゴミが出なければ、切ったゴミステーションに出してくださいね。

母さんにそう言っておこうと思

から、わたしは

ゴミのサイクル

ライフスタイルを一人一人が見直そう

昭和四十年代に起きた「ごみ戦争」は、出されたごみをいかに処理するかという問題でした。しかし、近年のごみ問題は、住民のごみの出し方を含めて、いかにごみを減らすかです。
まずできることは、ごみになると分かっている物を、家庭に持ち込まないことです。なるべく少ない包装にしてもらうなどライフスタイルを一人一人が見直し、ごみを減らせるところでは減らしていく努力をしていきたいものです。

2「ミ」を出すときは分別してから

分別収集とは、「燃えるごみ」と「燃えないごみ」とに分けたり、資源として再利用できるビンや古紙などを、別に収集したりする方法です。分別収集は、ごみ処理のキポイントです。もし、燃えないごみが焼却施設で処理されるとき、焼却効率を低めるだけでなく、焼却炉を傷める結果ともなります。また、混じっ



資源ごみの再利用は地球の資源を守る

ごみを資源としてリサイクル(再利用)することも、ごみ減量化の有効な手段です。地域の集団回収などを積極的に活用しましょう。

資源ごみの中でも、紙類は特に再利用の道が大きいのが特徴です。不用になった新聞や雑誌などの古紙は、再生紙として利用され、同じように新聞やダンボールに生まれ変わります。

例えば、家庭で出る新聞一年分(七十ト)を、ごみ処理した場合、約千六百円の費用がかかるといわれています。しかし、古紙として再利用すれば、一本半の立本(直径二十センチ、高さ八センチ)を切らずに済みます。このように、地球の緑を守ることもなるのです。

お買物、ご用命は市内で

お買物、ご用命は市内で

皆様のカ・ショールーム

Y 経後天然ガス ショールーム ☎24-2171

老舗の味をお気軽に！
各種宴会・御会合・仕出し料理承ります

新味 奇雨 割烹

本町1(駅前) ☎22-1600代

一秋の生徒募集中—
料理の基本、コツを学べば、毎日の料理作りに違いがでます。料理作りが楽しくなります。

全国料理学校認可校
新津料理学校

滝谷町5の2 ☎22/5000 駐車場有り 滝谷バス停下車1分 東新津駅下車3分

週1回、月2回クラス有り
昼・夜クラス有り
5人以上のグループ講習有り